

キャラクター名
棚鹿 太楼 (たなか たろう)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	UGN支部長D	カヴァー	自動販売機
	ソラリス					
オプション	オルクス		年齢	42	性別	男
覚醒	償い	衝動	憎悪	初期侵食率	40	%
出自	兄弟	経験	大失態	邂逅	主人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	2	0	0			2	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	3	1	0			4	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉	1	
回避			知覚			意志	1		調達	2	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	2		情報:UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:裏社会	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:噂話	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
エナドリ注☆入 (1+2+3+7+8)		0				コスト15。対象3体、ダイス・攻撃力・達成値バフ、C値-1。
冷えた一杯 (1+2+3+8)		0				コスト12。ダイス・攻撃力・達成値バフ、C値-1。
温かいエナドリ (3+8)		0				コスト8。攻撃力・達成値バフ、C値-1。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
データブレイン	
情報収集チーム	
使用人	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	ダイス	消費
起源種	P	N		
兄弟機	P 友情	N 劣等感		
桐谷雄吾	P 尽力	N 偏愛		
スカードネイル	P 執着	N 憎悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12 残り財産P: 7

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
タブレット	2	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	ソラリスのエフェクト(組み合わせたものも含む)の射程を「視界」に変更する							
戦乙女の導き	2	2	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果:	対象が次に行うメジャーアクションのダイスを+Lv個、メジャーアクションが攻撃の場合攻撃力+5							
解放の雷	2	4	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果:	対象が次に行うメジャーアクションのC値-1、攻撃力+[Lv*2]							
ハードワイヤード	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	基本侵蝕値+4。エフェクトアイテムをLv個装備できる							
サードウォッチ	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	シーン登場時に使用。そのシーンには登場せず、監視カメラなどによって、そのシーンの状況を見聞きできる。通常通り侵蝕率の上昇を行う。GMは使用を禁止してもよい。その場合侵蝕率は上昇しない							
鼓舞の雷	1	4d10	イニシアチブ	視界	単体	自動	120↑	
効果:	対象はイニシアチブプロセスでメインプロセスを行える。このメインプロセスでは行動済みにならず、すでに行動済みでも行える。シナリオ1回まで。							
要の陣形	2	3	メジャー	-	-	-	-	
効果:	対象を3体に変更。シナリオLv回							
導きの華	3	4	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果:	対象が次に行うメジャーアクションの達成値+[Lv*2]							
元気の水	★	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果:	普通のエナドリを生成する。							
テレキネシス	★	-	メジャー	視界	効果	自動	-	
効果:	シーンに登場する物品一つをシーン内の任意の場所に移動させる。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「いらっしゃいませ！今日は暑いですね！冷たい一杯でリフレッシュしませんか！？」
とあるUGN支部に鎮座する自動販売機から流れる機械音声。
来訪者がこの機械音声が支部長による心からの歓迎だということに気付いたのは、支部長室の扉を開けた時だった。
支部長室を埋め尽くさんばかりの自動販売機。
M●NSTER_ENERGY、RE●bull、RAI●IN、Z●NE、etc…
陳列された商品はすべてエナジードリンク。
「支部長、一本頂いていきます…」
職員たちは支部長室をはじめ支部の各所にある自動販売機で虚ろな目をして商品を買っていく。
支部長と呼ばれた自販機は職員一人一人に激励の機械音声を浴びせている。
そう、目の前の自販機こそがこの支部の支部長、”街頭の怪(バンダーミミック)”棚鹿 太楼である。
彼は以前、強力なエージェントだったが、とある遺産の加護を受けたジャームに敗北し、体の大半と所属していた支部を失う。
ブラックドッグシンドロームを発症していた彼は、失った体を補うための機械化手術を受けて今の体を手に入れた。
「なぜ私が自販機の体を選んだか、ですか？それはもちろん、24時間年中無休で働く彼らを尊敬しているからです！」
”街頭の怪(バンダーミミック)”棚鹿 太楼は、街中のあらゆる自販機に接続している。
彼は自販機であり、自販機もまた彼なのだ。彼の支部が管理する区域では自販機の目が届く限り、どんな些細な以上も見逃さない。
憎きあのジャームを逃さないために。

ちなみに戦闘へは本体の自販機が積極的に参加する。
彼を様々な場所へ運搬する専門の職員が存在するのだ。

「いらっしゃいませ！今日は肌寒いですね！温かい一杯でリラックスしませんか！？」
温かいエナドリなど願い下げである。